

家畜衛生 いずも

H30年度 No.1

2018. 4月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

■ 家畜衛生部長 あいさつ ～新年度にあたって～



平素より当部が行っております家畜衛生の向上に関する取り組みについて、多大なるご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、平成 29 年度シーズンにおける国内での「高病原性鳥インフルエンザ」の発生状況は、本年 1 月に香川県の肉用鶏飼養農場で本病が発生し、宍道湖をはじめとする全国 3 都県 44 羽の死亡野鳥からウイルスが検出されました。また、近隣国では韓国

において本病により 650 万羽余りの家きんが殺処分され、さらに3月に約1年ぶりとなる「口蹄疫」が豚で発生し、続発が確認されています。

このような状況の中、家畜防疫に関しましては家畜伝染病の発生防止と万一の発生に備えた危機管理体制の更なる強化を図って参ります。家畜飼養者の皆様にも「家畜飼養衛生管理基準」の遵守などをお願いしておりますが、家畜伝染病の発生防止のためとご理解いただき、引き続きの取り組みをお願いします。

また、家畜衛生対策では酪農巡回や肉用牛巡回指導による受胎率や生産性の向上対策、子牛事故低減対策、肥育牛の肉質向上対策、放牧衛生対策等を関係機関・団体と連携を図りながら進めて参ります。特にJALしまね雲南地区本部「畜産総合センター」での優良雌牛からの受精卵の採卵や乳用牛等への移植、飼養牛の衛生管理指導などを重点的に行うとともに、「出雲コーチン」やコマースナル鶏の飼育者に対する衛生管理の指導を継続して行います。

さらに「美味しまね認証」「農場 HACCP」認証等の取得に向けた取り組みを支援するなど、農場の安心・安全な畜産物供給体制構築を支援いたします。

今年度も出雲家畜衛生部職員一同「管内の家畜衛生の向上による畜産振興」に向けて取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

■ 平成30年度 出雲家畜衛生部職員紹介



家畜衛生課

課長	船木 博史
企画員	藤原 浩美
主任獣医師	山本 裕美
嘱託職員	森脇 秀俊
嘱託職員(庶務)	矢野 義明



防疫業務課

課長	土江 将文
企画員	東 智子
獣医師	濱田 悠太
獣医師(嘱託)	多久和 正
嘱託職員	石飛 幾久世

■ 異常産について



(子牛の四肢湾曲症)

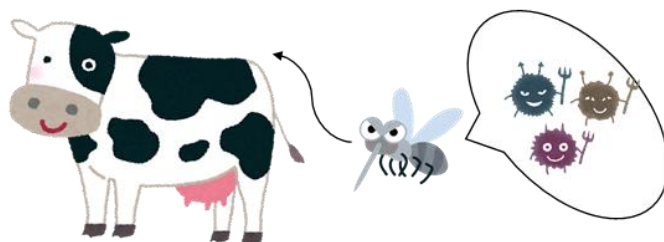


(起立不能と斜頸を示す新生子牛)

(出典:動物の感染症第三版)

厳しい冬を抜け心地よい春を迎えました。今年度も家畜保健衛生所では、アルボウイルスによる牛の異常産(牛流行熱・アカバネ病・チュウザン病・アイノウイルス感染症・イバラキ病・ピートンウイルス感染症)の発生を推測するため、その年に生まれた子牛から計4回(6月・8月・9月・11月)採血を行い、アルボウイルスの抗体保有状況を調査します。

アルボウイルス(吸血昆虫が媒介するウイルスの総称)は、7～10月にかけてヌカカなどの吸血昆虫が媒介し、妊娠牛に感染すると流死産や奇形子牛をまねく恐れがあり、大きな損失となる疾病です。



昨年度は調査したアルボウイルスによる抗体価の陽転は認められませんでした。今年度も異常がないことを願っています。

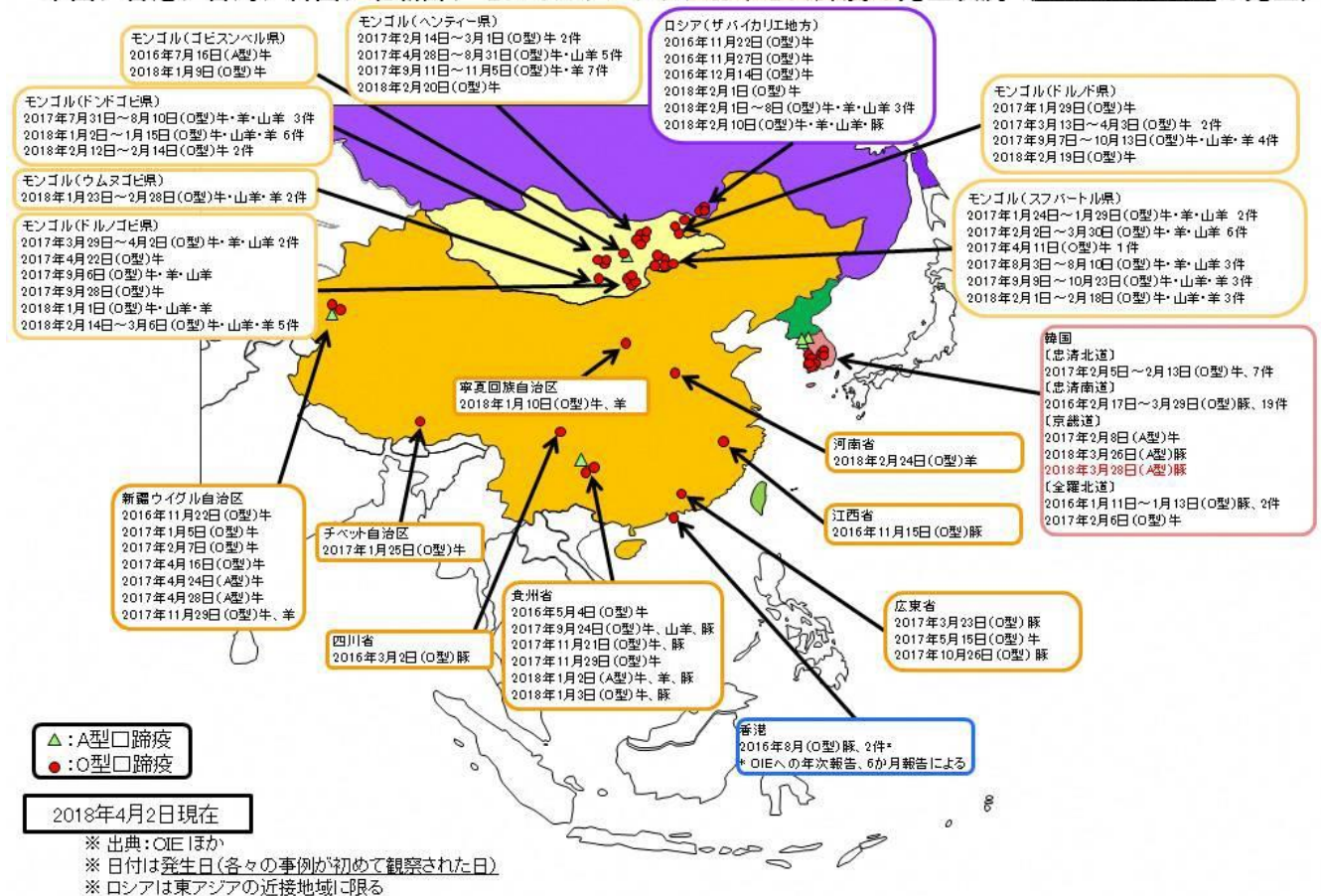
■ 韓国で「口蹄疫」が発生。「飼養衛生管理基準」の遵守を！

水温み、鳥歌う過ごしやすい季節となりました。しかし、我々、家畜衛生の領域では春の「季語」と言えば「口蹄疫」であります。この3月には、韓国の養豚場で13カ月ぶりに口蹄疫が発生しました。平成12年・22年の過去の国内発生も春季でありました。そして、過去の国内発生に先んじて、韓国で口蹄疫が発生しております。よって、現在我が国へ侵入するリスクが極めて高い状況であると言えるでしょう。

また、前年より中国・ロシア・モンゴルでは口蹄疫の発生が続いております。年々、日本国内を訪れるアジア諸国からの観光客は増加傾向で、国内景気には喜ばしいことではありますが、家畜衛生の現場では衛生管理を引き締めていかねばなりません。

飼養衛生管理基準の遵守は、ひとたび発生すれば我国の畜産業に大きな被害を与える海外悪性伝染病の侵入阻止に繋がるだけでなく、県内でもみられるサルモネラ症やRSウイルス感染症の発生防止にも効果があります。口蹄疫ウイルスの国内侵入防止対策として、空港や港等で水際防疫を実施していますが、農家の皆様には、引き続き、飼養衛生管理基準の遵守の徹底をお願いします。

中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況（2016年1月以降の発生）



■ 生乳として初めての美味しまね認証取得！

農事組合法人 日登牧場(代表 佐藤晴夫 さん)が、平成 29 年度第 5 回美味しまね認証審査委員会(平成 30 年 3 月 15 日開催)での認証審査により、県内で初めて生乳生産工程における美味しまね認証(生乳)を取得されました。

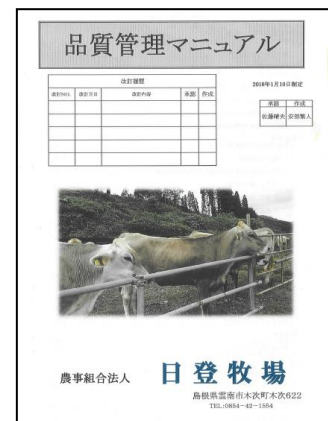
美味しまね認証(生乳)は、「1. 牛の生産・導入管理、2. 飼養管理、3. 施設管理、4. 搾乳及び生乳管理、5. 生産環境、6. 生産者の安全・衛生管理、7. 生産者の意識啓発、8. 自己点検」の 8 大項目、合計 67 の基準が設定され、高い安全性と優れた品質を兼ね備えた生乳を生産する生産者・生産方法を、知事が認証する制度です。

(農)日登牧場では平成 2 年の牧場開設以来、「山地(やまち)放牧による運動と自然採食による牛の健康管理」、「有機農法による粗飼料自給中心で環境保全する飼養管理」を特徴とした、ブラウンスイス種牛による高品質乳を生産されています。

平成 29 年 2 月から、忙しい牧場作業の中、美味しまね認証(生乳)基準に基づき、生産工程のマニュアル化や生産工程の記帳・データ管理、農場内の整理整頓などの生産工程管理に取り組み、約 1 年の短期間の取り組みでの認証取得となりました。

ブラウンスイス種乳牛の生乳を原料とした認証製品は、(有)木次乳業より「ブラウンスイス牛乳」、「山地酪農牛乳」、「ブラウンスイスみるくジャム」として販売されていますので、ご紹介します。

美味しまね認証では生乳のほか、採卵鶏、肥育牛、肉用鶏、肥育豚の認証を行っています。新たに美味しまね認証に取り組みたい方は、出雲家畜衛生部までご連絡ください。



■ 放牧検査を実施しています

公共放牧場や共同牧場(林間、転作田・耕作放棄地を含む)で放牧する牛について、放牧前後に血液検査や健康チェックを実施し、放牧場における伝染病の伝播防止や放牧事故の低減を図っています。

放牧中は、毎日の観察と、ピロプラズマ原虫を媒介するダニの寄生予防などの衛生対策を行います。

検査を希望される場合は、放牧場の窓口(役場や JA 等)にご連絡ください。

検査項目： ピロプラズマ病・牛白血病・ヘマトクリット(貧血の有無) など